

新日本製鐵株式会社

PDF サーバソリューション導入により、電子ドキュメントの運用推進とセキュリティ強化を実現。

日本・製鉄業のパイオニアであり、エンジニアリング事業を始め、多岐に渡る事業展開を続ける新日本製鐵は、PDF 作成ソフトウェアの整備にサーバシステムを導入。PDF 文書の作成・利用拡大、さらに電子ドキュメントのセキュリティ強化をも実現しました。

新日本製鐵株式会社

新日本製鐵株式会社

<http://www.nsc.co.jp/>

所在地：東京都千代田区大手町 2-6-3

職員数：15,138 名（平成 16 年 3 月 31 日現在）

事業内容：製鉄事業をはじめとする、エンジニアリング事業、都市開発事業、システムソリューション事業、新素材・非鉄素材事業、化学事業、電力事業を展開

ソリューション：

電子ドキュメントの運用とセキュリティの強化

使用したアドビ製品：

Adobe® Document Server

使用したパートナー連携製品：

日立ソフトウェアエンジニアリング社

Renopulse®/Extension Client



新日本製鐵株式会社

業務プロセス改革推進部 IT グループ マネージャー

新美 浩樹氏

会社概要

新日本製鐵株式会社は、1901 年に操業を開始した官営八幡製鐵所を母体として創立。1950 年に過度経済集中排除法によって、八幡製鐵、富士製鐵の 2 社に分割されたものの、1970 年に再び両者と合併して新日本製鐵株式会社として新たなスタートを切りました。

その後、リーディングカンパニーとして世界有数の鉄鋼生産国・日本の発展に貢献するとともに、鉄づくりを通じて培った総合技術力と経済資源を基盤としエンジニアリング事業を始め、都市開発事業、システムソリューション事業、新素材・非鉄素材事業、化学事業、電力事業など、多岐に渡る事業発展を続けてきました。

直面した課題

新日本製鐵では、2005 年 4 月に施行された個人情報保護法以前より、本社 30 部署、支店 7 店を対象に電子ドキュメントに対するセキュリティレベルの強化を検討してきました。「セキュリティに関する社内規定を作り、社内教育を行っていくことになりましたが、それだけでは電子文書のセキュリティ強化に対するルールの徹底が浸透しにくい。そこで、ソフトウェア環境から整備することにしました」と今回のセキュリティ強化の要となった、新日本製鐵 業務プロセス改革推進部 IT グループ マネージャー 新美浩樹氏はいます。同社で扱う文書情報には、Microsoft® Word や Microsoft Excel を主流としたものに加え、支店、技術情報関連、製鐵所などから送られてくる文書があります。とくに、お客様と直接接する製鐵所からは JPEG などの写真ファイルが添付されたリポートが送付される機会が多く、ファイル容量の大きさやリポート内容の改ざんといった問題点がありました。

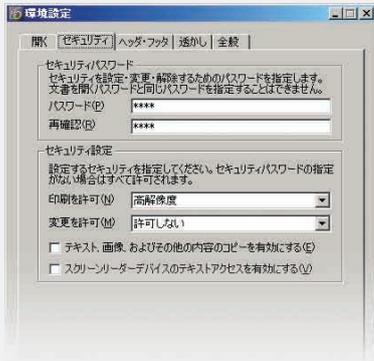
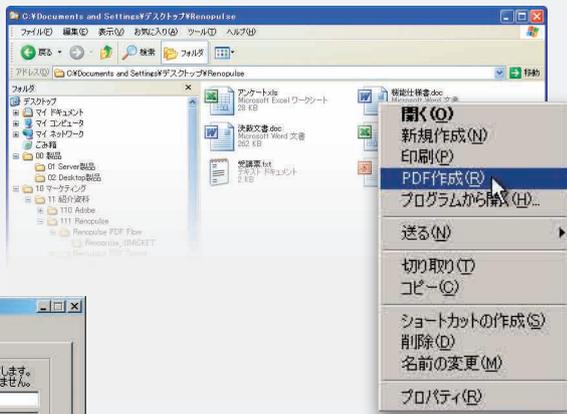
そんな折りに、“社内や社外へ文書情報を流す際に PDF を使うことでセキュリティ・レベルがあがるのではないか”という意見が社内であり、さらに社外からも PDF で資料を送ってほしいという要望の声が多く聞かれるようになりました。「ソフトウェアの環境を整えてセキュリティレベルを上げるという社の方針と、社内・外のニーズが PDF での電子文書フォーマットを望んでいることがわかり、当社が望む PDF 環境を整備できるソフトはないかと探しはじめました」（新美氏談）

導入の決め手

当初は対象が本社のみということもあり、クライアントソフトの導入を検討していたといます。「その時に、当社の君津製鐵所が社外との電子文書の送受信に PDF 導入を考えてることを知りました。そこで支店などを含め、本社が一括して管理・運用できるサーバ型システムを導入することにしました」（新美氏談）

サーバソフトウェア導入に際しては、改ざん防止や漏洩防止はもちろんのこと、運用面でも低コストでの導入、インストールなどの操作の簡便さ、製品の安定性などを条件

Renopulse/Extension Client による PDF 作成画面：Microsoft Windows® のエクスプローラ上で、対象ファイルを選択し右クリックで、「PDF 作成」へ。



Renopulse/Extension Client によるセキュリティ設定画面：タグによるパネル表示で、簡単にセキュリティ設定が可能。

としました。いろいろと検討した結果、PDF 作成・編集をサーバ環境で行える Adobe Document Server と、わかりやすいユーザインターフェイスの提供により、Microsoft Word や Microsoft Excel などのファイルをダイレクトに PDF 変換できる日立ソフトウェアエンジニアリング社の Renopulse/Extension Client の採用を決定したといいます。

「当社の条件にあったこともありますが、とくに注目したのは純正ツールで作成した PDF ファイルに対して Adobe 社がサポート体制を取ってくれるというシステムでした。PDF ファイルは永年保管をイメージしていますので、障害対応、製品無償バージョンアップ、改良版プログラムの提供などを行う年間保守サポート体制は決め手の大きなファクターとなったといえます」（新美氏談）

導入効果と展望

今回のシステム導入により、電子ドキュメントのセキュリティ強化はベーシックなレベルまで到達したと新美氏はいいます。また、写真添付の多い技術関連のレポートに関してもサーバシステムを導入することによって、容量が非常に小さくなったと利用者からも好評を得ています。「本社でこのシステムの運用をスタートしたのが 2005 年 2 月末、4 月 1 日には約 20 拠点で稼働を開始しました。現在、Renopulse のクライアント版をダウンロードして利用しているのは、本社・支店内の把握できる数で約 200 名。1 日の文書変換は本社・支店に箇所を加えると、約 100 文書になります。運用スタート時に本社・支店以外の PC 環境整備の遅れが発覚し、その対応に追われましたが、短期間にスタートできたのはこのシステムの特徴でもあると思います」（新美氏談） 今後は、イントラネットを使った社内インフォメーションによる利用者の拡大と PDF 文書作成を浸透させ、さらなるセキュリティ強化といったステップアップを目指しています。

アドビシステムズ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2 ゲートシティ大崎 イーストタワー
www.adobe.co.jp

Adobe Systems Incorporated
345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704 USA
www.adobe.com

Adobe、Adobe ロゴおよび Acrobat は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。Renopulse は、日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社の商標または登録商標です。Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。その他のすべての商標は、それぞれの権利帰属者の所有物です。

© 2005 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Printed in Japan.
ASJCS138.5/05

